

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>・自分達で作上げた理念があります。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>・毎日スタッフ全員で唱和し、1日1日をリセットという気持ちで毎日のケアにあたっています。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>・ご家族や地域の方が来られた時すぐに見ていただけるように、理念を貼り出して、地域の集まりの時、ホームの実践を伝えるようにしています。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>・近くの公園や、神社に散歩に行ったり、買い物に行った時気軽に挨拶を交わしたり、顔なじみの関係ができ、近所の方達にも、利用者やスタッフが声をかけ、お茶飲みに寄っていただき日常的にお付き合いができています。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>・町内会ははじめ、あいご会との交流が多く、校区内の行事等参加しています。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	・ホーム横のごみステーションの掃除をしたり町内会の行事等は準備から手伝いに参加しています。あいご会の行事で一緒になった独居の方にはホームへ遊びに来てくださるよう声をかけています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・自己評価、外部評価を通して、各スタッフが施設の一員としてどうあるべきかを問いかけ振り返る意義を伝え、ご指摘に関しては職員一同、検討改善に取り組んでいます。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2ヶ月に1回開催し、ホームでの活動や生活ぶりをお知らせし、ホームに対するご意見をいただきながら、サービスの向上に努めています。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・問題(事故)や、疑問が生じた時は連絡をとり、助言を受けながらサービスを提供しています。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・成年後見人制度をご利用の方や、今後利用検討中の方もあり、司法書士の方とも協力して、スタッフも家族の方もいつでも活用できるようにしています。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・身体的、精神的な暴力による虐待が行われないようお互いに声かけし、時には勉強会をしながら厳重な注意を払い防止に努めています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・共に重要事項説明書を読み合わせ、質問等の時間を十分に設け納得していただいた上で締結、解除を行っています。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・「御意見箱」の設置を行うと同時にいつも利用者に声かけし何でもいいやすい環境を整えています。介護相談委員の派遣もお願いしています。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・面会に来られた時に随時近況報告をし、遠方の方には手紙や写真、毎月お便りお送りし、電話なども利用しています。金銭管理は1ヶ月分の領収書、出納表を郵送もしくは手渡しにて、確認のサインをいただいています。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・「御意見箱」の設置を行うと同時にいつも家族に「何かありませんか？」の声かけを行っています。第三者委員会の方にも御協力をおねがいしてあります。	○ ・御家族の方が本音を言われているか常に気をつけるように心がけています。何でも言い合える環境を作りたく、スタッフ間でも声かけを行っています。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・毎日の申し送りや、月1回のスタッフ会議、管理者会議を利用して意見を聞くようにしています。日頃から何でも言える雰囲気、環境が出来ています。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	・グループホームに基準に沿った対応と共に利用者の状態やペースに合わせたローテーションを組んでいます。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・基本的には、各ユニットのスタッフを固定化し顔なじみのケアを心がけています。移動や離職もほとんどありません。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>・外部、内部の研修には積極的に参加しています。運営者も研修会を開き研修を受ける機会を設けています。研修報告会をしてスタッフの質の向上に努めています。</p>	○	<p>・全てのスタッフが自発的に研修に参加できるように勤務変更や有休を活用したりくふうしています。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>・鹿児島県・鹿児島市のグループホーム協議会に加入し、随時勉強会、交流会に参加しています。</p>	○	<p>・近隣の施設や、病院とも情報交換をしたり、少しずつネットワーク作りができつつあります。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>・年1回全員で忘年会を行ったり、有休をとりやすい環境をこころがけています。</p>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>・毎月の管理者会議で現場の状況を報告しています。資格手当も上がり向上心を持って働けるようになりました。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>・入居前自宅訪問、面談をさせてもらい、ご本人の意向に沿ったケアができるように努めています。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>・入居前にいつでも、何回でもホームの見学をしていただき、管理者スタッフ、利用者、ホームの雰囲気などをみてもらっています。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・グループホームの基準に沿って説明し、いきなり入居とせず何回でも来ていただき、本当にグループホーム利用が良いのかじっくり検討してもらうように努めています。近くの施設や小規模多機能などの紹介もしています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・ほとんどの方が、見学、お茶飲みから始めています。家族や関係者の方にも来ていただいたり、電話を利用したりして、安心感を持ってもらうようにしています。家族の方も一緒に泊まっていたりしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・認知症の方と接するのではなく、人と人のお付き合いという姿勢で共に、笑い時には涙しながら過しています。また励ましてもらったり、得意なことや、鹿児島弁を教えてもらったりして、楽しく過しています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・ご家族の協力をいただき、普段の生活やホームでの行事など一緒に参加し楽しんでいただけるよう、機会や場面を作っています。	○	・重症化した方も多く、家族の協力をいただかないとケアできない現実もあります。家族の方も忙しかったり、遠方にいらしたりして、なかなか会えないのも問題です。今後の課題であると思います。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・いつでも気軽に面会に来ていただけるように声かけしています。時には外食に行ってもらったり、少しでも一緒に過していただけるようお茶を出したり、特に面会時間も決めていませんので、好きなとき時間のある時に、きていただけるようにしています。	○	・利用者が家族の方に会いたいと言われた時に、家族の都合がつかなかったり、遠方に住んでいらっしゃる家族との関係が難しいことがあります。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・ご本人のお友達や、趣味仲間との交流をいつまでも行えるように支援しています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・居室で過される時間も大切にしつつ、皆さんとホールで歌を歌ったり、買い物や、散歩に出かけたり、お互いの居室でお茶を飲んだり、一緒に入浴したり、和気あいあいの雰囲気過されています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・家族の方とお付き合いは継続しています。退去された方のお見舞いに入居者の方も一緒に行ったり、家族の方も時々立ち寄ってくださり懐かしい話をさせていただきます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・まずはご本人の気持ち、希望を優先し、家族やスタッフの考えを取り入れ検討しています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居前に生活歴を聞くと共に、家庭訪問を行い情報収集に努め、今まで利用されていたサービスより情報をいただいたりしています。	○	・長いことひとり暮らしであったり、家族のおられない方の生活歴の把握が困難なケースがあり、入居されてからの様子観察で把握に努めるようにしています。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・その方の健康状態、心の状態をよく観察して出来ることはおおいに力を発揮してもらええるように努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・計画作成にあたっては、本人はもちろん、家族、スタッフの意見を聞く場を設けています。(サービス担当者会議の開催)		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・状態、状況変化、家族より申し出があった時、スタッフで問題が生じた時など担当者会議を開き、現状に即したプランを作成しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・健康面、生活面、リスク面を記録に残し評価を行い、プラン作成の参考にしており、より良いケアが出来るようにしています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・介護保険の中のグループホームとして対応できる場所は、やっています。災害時は一時避難所としても使えるようにしています。また、希望の家族はいつでも宿泊できるようにしています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・警察、消防の協力をお願いします。校区の方々(民生委員、自治会)の協力をいただき、ボランティアの方もとても協力的です。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・利用者の希望に応じて、訪問理容やマッサージ、フットケアを利用しています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・運営推進委員会にも参加していただき、オムツ申請、入居者状況などの連絡も取り合っています。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・本人、家族の希望するかかりつけの医療機関を受診してもらっています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>・高齢、持病、難病の方とおられるので、日々緊張しています。何かあったらすぐに、主治医、病院、家族と連絡が取れるようにしています。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>・医療行為との関係が問題となっているので、勉強会を行っています。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・言葉の暴力にならないように、相手の立場にたつての対応をしています。記録、個人情報の取り扱いについても慎重に取り扱っています。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	・本人の思いや、気持ちがいつでも表せるように働きかけをしたり、こちらが察したり、納得してもらえるように対応しています。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・食事の時間も好きなときにしてもらい、入浴、外出など希望や体調に合わせて柔軟に対応しています。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・本人や家族の希望や好みの物を着ていただき、美容院や理容室を利用されています。どうしても外出できない方は、訪問理容を利用してもらっています。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・自分達で、買い物に行ったり、食事作りから、盛り付け、配膳、下膳食器洗いなど出来る方をお願いして、楽しく食事を取っています。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・喫煙者はおりませんが、利用者のお好みも把握しており、一緒に買い物に行ったり、手作りおやつを作ったり、時には、お酒を飲んだりしています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・排泄パターンを把握しトイレ誘導しトイレでの排泄を促しています。夜間オムツ対応の方も、日中はトイレ使用し、日中はオムツ使用の方はゼロです。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・人員配置やその他の事情で週3回(火、木、土)の入浴日を設けているが、その以外に入浴を希望される方は、2階の入浴日(月、水、金)を利用していただいたり、温泉に行かれたりしています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・毎日の睡眠チェック表を付け、夜間に眠れるように昼間の過ごし方を工夫したり、あまり睡眠が取れていないような方には、昼寝を促したりしています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・それぞれの得意なことや、好きなことを把握しそれらを取り入れ披露してもらったり、生きがいを持てるようにしています。(詩吟、歌、踊り、民謡、三味線、洗濯物たたみ、料理、掃除等)		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・管理できる方があまりいませんが、財布を持ち少しのお金を管理されている方もあります。一緒に買い物に行ったりしています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・天気の良い日は、毎日近くの公園、神社、に散歩にでかけています。天文館や、黎明館、美術館、博物館、メルヘン館などへも出かけています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・外出が好きな方が多く、花見をはじめ、ソーメン流し、おはらまつり、6月灯、菊まつり(磯庭園)、水族館、外食など家族の方の協力をいただきながら、出かけています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話は、いつでも自由に使えるようにしてあります、家族からも電話や、手紙、絵葉書などがきます。返事を出されたり話をされたり、一緒に楽しんでいます。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・いつでも面会できるように面会時間は設けていません。近所の知人や家族の方も仕事帰りに立ち寄ってくださいます。一緒にお茶を飲んだりしています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・「身体拘束はしてはならない。」とスタッフ全員が理解し、身体拘束廃止委員会を設け毎月勉強会を開いています。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・正面玄関は鍵をかけていませんが、入り口2番目のドアは鍵をかけています。(飛び出しを防いだり、不審者等の侵入を防ぐ為)		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・スタッフは昼夜を通じてプライバシーを考慮しつつ、利用者の状況把握に努め怪我や事故の事も考えて、目配り、気配りを行っています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・共同生活であるので、全体的な危険を考え、包丁類は夜間手の届かない所に保管し、洗剤類も棚の上に置いたり、カーテンなどで目隠しをしたりしています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・個別のリスクを把握し記録やヒヤリハットを活用し事故防止に取り組んでいます。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・年2回防災訓練を行い、緊急時の対応を勉強しています。ホットラインを開設し24時間対応できるシステムが確立されています。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・防災訓練を年2回行い、町内会はじめ、近隣の方にも協力をいただけるようお願いしています。防災避難マップを準備し訓練をしています。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	・リスクについては、その都度家族の方にお話しています。問題が生じた時は、家族、本人と相談しながら対応策を考えています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・毎日朝の申し送りで利用者の体調、状況を報告し情報共有しています。バイタルチェック、食事、水分補給、排泄、睡眠などの観察記録により、早めの異常発見と対応ができるようにしています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・疾病と薬、副作用のことをスタッフが理解し服薬支援と状況変化の確認をし医療側と相談している。薬が変わった時には、医師、薬剤師、看護師からの説明をうけ副作用についても把握し状態の観察を強化しています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・野菜を多めに取り入れたり、ヨーグルトを食べたり、水分チェック表を作り便秘よぼうに努めています。毎日散歩や、ラジオ体操、屋内歩行なども取り入れています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・毎食後の歯磨きの声かけ、見守りを行い、必要な方は介助をして全員の方の口腔ケアを行っています。訪問歯科を利用し口腔ケアの指導もうけています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・毎日のケア記録に記録し栄養バランスも十分に配慮しています。水分量もチェック表を作り活用しています。飲み物を、水、お茶だけでなく、ジュース、コーヒー、紅茶、ポカリ、ヤクルト、カルピス、麦茶等工夫しています。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	・感染対策マニュアルがあり実行している。インフルエンザの予防接種も全員受け、手洗い、うがいを徹底しています。ペーパータオルを使用し環境整備にも努めています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・食中毒予防に関する勉強会を開いたり、手洗いを徹底し、調理器具は高温乾燥し、食材は、旬の物を使用し、毎日買い物にもでかけ、食材は、出来るだけ使い切るようにしています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・玄関前には多くのプランターや鉢花を置いている。椅子も設置し近隣の方がよく立ち寄られます。時々花や野菜の差し入れもあります。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・玄関や廊下にはボランティアの方が季節感のある写真や飾り物を飾ってくださり、利用者の作品を置いたり、生花の差し入れもあったり季節感に囲まれた明るい雰囲気がかもし出されています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・ひとりひとりが好きな場所で過ごされています。気の合った利用者同士でテレビをみたり、歌を歌ったり、お茶を飲んだりして過ごされています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・自宅で使用されていた家具やベッド、仏壇などを持ち込まれ使用されています。ご夫婦は寝室を一緒にされ、いつでも安心して生活できるように工夫しています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・各居室やホールの換気に努め、冷やしすぎや、暖めすぎに注意し各部屋には、必要時加湿器や空気清浄機を置いて対応しています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・問題点はあると思いますが、皆さんが安全に生活できるように気配り目配りをしています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・居室の間違いや、トイレの失敗等多々ありますが迷われたり、混乱された時は、その都度さりげなく声かけして、少しでもご自分で出来るように支援しています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・玄関周辺に園芸の出来る環境があり、野菜や花を育てたり、季節ごとの行事(花火、送り火、迎え火など)洗濯物を干したりされています。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・ご利用者の「環境」のひとつである私たち「スタッフ」がそれぞれの周辺症状の誘引となることの無いように温かく、その方のペースに応じた丁寧なケアを行えるように日々努力しております。そのために、スタッフ間の良い関係をつくり、それぞれが意識し、良い空間づくりへとつなげることができ「家族」へと近づけているのではと実感しております。スタッフ間のトラブルが無くとても明るく仲の良い雰囲気が自慢です。